

月に昇ったウサギ

ウサギにはサルとキツネの修行仲間がいました。

山の中でなかよく暮らしていました。

三匹は修行についていつも話しあっていました。



あるとき三匹は山の中で、いまにも死にそうになっているひとりの老人を発見しました。

人にやさしくすることを約束していた三匹は、きっとお腹が空いているのだと思いました。



サルは、得意の木登りで木の実をたくさんとって、老人に差し上げました。

こんなので良かったら召し上がってください。

老人はゆっくりとひとつの実をうけ取りました。



キツネは川におりて行って魚をとり、大いそぎで老人に差し上げました。

こんなので良かったら召し上がってください。
老人はゆっくりとその魚をうけとりました。



ところがいつも草しか食べていないウサギは老人になにも差し上げるものがありません。

つらくて、かなしくて、それでサルとキツネに火をおこしてくれないかとたのみました。



火はおおきく燃えさかりました。

ウサギは大きく飛び上がりました。

そして「ぼくを食べてもらって」とさけびながら
その火の中へ飛び込んだのです。



びっくりしたキツネとサルは、なんてことするんだと必死になってウサギをすくおうとしました。

ところが火のいきおいが強くて近づけません。のこされた二匹は、身うごきできませんでした。



それを見ていた老人は、月を指さしました。

月にはウサギの影がうつっていました。

「なげいてはいけない。あのウサギは菩薩であり、いずれブツダとして生まれ変わるであろう。お前たちは人間に生まれ変わって、この話を伝えなさい」

